

2016. 6. 20

「日本酒フェア 2016」を終えて

日本酒造組合中央会
会長 篠原 成行

1. 日本酒造組合中央会は、6月18日（土）、池袋サンシャインシティ・ワールドインポートマート4F展示ホールA及び文化会館4F展示ホールBにおいて、「日本酒フェア2016」を開催しました。

このたびは、御来場者の方々の暖かいご支援とご声援のもとで大きな事故もなく、盛会裡に終了できましたことに感謝申し上げます。

2. 「平成27酒造年度新酒鑑評会公開きき酒会」は、日本酒造組合中央会が独立行政法人酒類総合研究所の後援を受けて行っているもので、今年で104回を数え東京での開催も10回目を迎えました。

全国各地の蔵元の最高水準の醸造技術による吟醸酒のうち新酒鑑評会入賞酒412点（うち金賞酒227点）を味わえる唯一のきき酒会です。吟醸酒の技の競演を十分に堪能していただけたものと存じます。

3. 「第10回全国日本酒フェア」は、日本酒造組合中央会の主催で45都道府県（鹿児島県、沖縄県を除く。）の蔵元の自慢の銘酒約800銘柄以上（吟醸酒に限らず、純米酒、本醸造酒、梅酒など日本酒ベースのリキュール等を含む。）を展示し、試飲と販売を行いました。

全国各地の気候・風土が醸す多種・多様な日本酒との出会いや蔵元との酒談議を通じ、日本酒の魅力の新発見・再発見、更には文化の多様性を大いに楽しんでいただけたものと思います。

会場内では日本酒セミナーを開催し、日本酒スタイリストのこばたてるみさんによる「心とカラダを癒す日本酒の飲み方」、独立行政法人酒類総合研究所品質・安全性研究部門長の藤井 力（ふじい つとむ）氏による「平成27酒造年度全国新酒鑑評会について」に加え、「涼を運ぶ！夏の日本酒クールスタイル」、「外国人杜氏による酒造り」、「酒造りの今昔～ベテラン杜氏と女性杜氏との対談」も行いました。

日本酒の魅力と多様性について一層理解を深めていただいたものと考えております。

4. 今回の「日本酒フェア 2016」は、3度目の土曜日開催で、新聞、WEB 紙面等で幅広く周知されたこともあり、約6,300人もの方に御来場いただき、感謝しております。

5. 一昨年来、政府のクールジャパン戦略の一環として日本産酒類の総合的な輸出環境整備について政府全体の施策として國酒の輸出振興を支援いただいております。

また、平成25年1月に京都市で「京都市清酒の普及の促進に関する条例」が公布・施行されたのを契機として全国各地で乾杯条例が制定され、現在123の条例が施行されています。

そして、酒造業界だけでなく旅行業界や地方自治体、国からなる酒蔵ツーリズム推進協議会等において、各地の酒蔵ツーリズムが創造されており、世界で日本酒の愛好家が増えるにつれ、国内外から酒蔵を訪問する観光客が増加している中で國酒を広報する機会として酒蔵見学の拡大と外国人向けツール開発を取り進めて地域活性化の一助として貢献していきたいと思っております。

こういった日本酒御支援の動きをしっかりと受け止め、業界全体で國酒たる日本酒振興のために努力していきたいと考えております。

「日本酒フェア2016」には、一昨年に引き続き土曜日開催で若い世代や女性の方にも多数御来場いただき、また、外国の方が熱心にきき酒をされている姿が見られました。これを機会に日本酒のファン層が広がればと願っております。

「日本酒フェア 2016」の賑わいをまのあたりにし、また、蔵元が多くの日本酒ファンのご意見やご声援を直接お聞きすることができ、中央会傘下の各地の蔵元にとって大きな励みとなりました。

6. 今回の「日本酒フェア 2016」でも、東日本大震災の復興に取り組んでいる東北、関東地方の酒蔵並びに本年4月の熊本地震において被災した酒蔵の御支援と併せて、今後も全国の蔵元が元気になるように御支援いただければと思います。

皆様の日本酒並びに「日本酒フェア」への熱い御支援をお願いして、私の御礼のあいさつとさせていただきます。